九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

中国語の「主題」とその統語的基盤

陳, 陸琴

https://hdl.handle.net/2324/2235998

出版情報：Kyushu University, 2018, 博士（文学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

（様式６－２）

氏　　名	陳陸琴
論　文　名	中国語の「主題」とその統語的基盤
論文調査委員	主　査　九州大学　教授　上山　あゆみ 副　査　九州大学　教授　久保　智之 副　査　九州大学　准教授　下地　理則 副　査　九州大学　講師　太田　真理 副　査　九州大学　教授　高山　倫明

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

中国語は、文頭に（いわゆる「主語」に加えて）「主題」が出てくることが多いため、しばしば主題優性言語（topic-prominent language）であると言われる。中国語の統語論の研究においても「主題」という概念が言及されることは少なくないが、「主題」とは何か定義されないまま議論が行われることも多々ある。統語論における「主題」は、必ずしも語用論における「主題」とは一致しないこともあり、混乱のもととなってきた。

本論文は、Subject と Predicate の間に成り立つ Predication 関係と呼ばれる統語関係を明示的に規定し、この Predication 関係がさまざまな構文において重要な働きをなしているということを主張する。本論文の Predication 関係とは、純粋に形式的に定義された関係である。ただし、その関係は、統語論において構築された後、語用論において、さまざまに評価され解釈されるため、Predication 関係の Subject は、語用論における「主題」に対応する場合も対応しない場合もある。このように、統語論における「主題」という紛らわしい概念を排し、Predication 関係という明示的な概念に置き換えることによって、本論文は、「主題」という概念にまつわる語用論的側面と統語論的側面の峻別に成功した。

本論文では、Predication 関係がかかわる構文が数種類取り上げられ、それらの特徴が詳しく記述された上で、統語論的分析が提案された。たとえば、２章では、従来、動詞連続構文（serial verb construction）とみなされてきたものの中に、修飾関係にもとづくものと Predication 関係にもとづくものとがあることが示された。先行研究においても、中国語の動詞連続構文にいくつかのタイプがあるという指摘はあったものの、何を手がかりにして分類するべきか明示的に述べられてはこなかった。本論文では、「怎么样」テスト、「不/没」テスト、「只」テストなど、具体的なテスト方法が複数あげられ、動詞連続構文のタイプによって、はっきりと構造が異なることが示された。

また、４章と５章では、主動詞となるものの繰り返しを含む、２種類の構文が取り上げられた。これらの構文では、同じ動詞が２回現れているように見えるが、本論文では、その最初のものは名

詞化され、Predication 関係の Subject になっているという分析が提案された。２つの構文の違いは、派生のどの時点で名詞化が起こるかという違いに帰せられている。また、その一方の構文は、必ず逆接的な後続分を予期させるという特徴を持つが、その点についても、Predication 構造に適用する語用論の一般原理から説明がされている。

このように、本論文では、Predication 関係という統語関係を仮定することによって、従来「主題」という曖昧なままの概念で言及されてきた多くのことが明示的に説明されるということを示したものである。単に理論的な整合性にとどまらず、多くの新しい現象の記述がなされている点が特に評価される。

よって、本調査委員会は、本論文の提出者が、博士（文学）の学位を授与されるに十分であることを認める。